

第 8 回あり方検討委員会

資料No.1

■第 7 回委員会

◎集約した学校でどのような学びを保障するのか

- 柔軟な発想で様々な体験ができる。（自然体験、社会体験等）
- 多様な考え方に触れる学び。（異学年との交流・地域との交流等）
- 多くの友だちと学び合い、高め合えるようにする。
- キャリア教育等社会とつながる学び。

◎多様化する子どもたちに対応した学校はどうあったらよいか

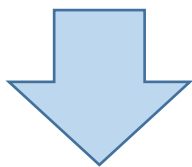
- 特別な支援が必要な子どもも共に学ぶ。
- 多様な背景を持つ子どもたちが共に学ぶ学校。
- 不登校・不適應傾向の子どもに対する手厚い支援。
- 人間関係の状況の変化に対応できる場所を確保する。（人間関係〈友だち・先生・家庭等〉、いじめ等）

◎地域との連携をどのようにしていったらよいか

- 学校が集約されると、子どもたちにとっては学ぶ地域が広がるよさがある。
- 地域を学ぶ機会を作ったり、地域行事に参画する機会を意図的に作ったりする。
- 子どもたちが地域のことを学ぶ機会を大事にする。縦割りで地域のことについて学ぶ。
- 学校ボランティア等地域とのかかわりを引き続き残す。
- 集約された学校に地域住民が入ることで、伝統が引き継がれていく。
- 公民館等人が集まる機能を備える。平日に学校を開放する。

◎その他

- 今ある学校のよさを引き継いでいく。
- 辰野町の教育ビジョンとリンクさせ、辰野町に合ったやり方で学校づくりを進める。
- 辰野町の学校に通いたいというような学校をつくる。
- お金をかけてしっかりとした施設にする。町のバックアップが必要である。
- 小中の敷地は一体にして、中 1 ギャップの解消をはかる。
- やわらかい発想で、学校教育を変えていく。
- 家庭教育も大事に考える。
- 先生方に余裕のある学校にする。
- 先生方の意見も聞きながら進めていく。
- みんなが分かりあったうえで、統合を進めていく。
- 10 年先のことを決めるリスクも考えたい。
- 学校がなくなることで、若者の流出、子育て世代の居住地の選択から外れてしまう。



■第 8 回委員会

□全体討議

◎集約した学校で、小中 9 年間を見通した学びの場として考えていく。（確認）

◎子どもと地域とのかかわりをどのようにしたらよいか

- ※地域の特色を生かした教育      ※地域で子どもを育てる
- ※地域が支える教育活動      ※地域の思いを学校に

○子どもたちが地域を学ぶ

- ・地域のことを学習      ・縦割りで地域のことを学ぶ
- ・地域行事への参画      等

○学校と地域との連携

- ・学校ボランティア      ・公民館等地域住民が集まる機能を